

**災害応援職員が派遣
本市のために尽力**

本市の友好都市である埼玉県行田市職員の中島延雄さん、三重県桑名市職員に西尾英哲さん、高柳貴久蔵さん、また福島県職員に吉澤信之さん、横山祐治さん、後藤輝夫さんが災害応援職員として本市に派遣され、復興のために協力してくれています。行田市職員の中島さんは、「友好都市の白河のために、少しでも力になれるよう働きたいです」と話していました。



**カラオケひろばふらっと（中心市街地活性化事業）
カラオケで笑顔に**

カラオケひろばふらっと（本町）では、浜通り地方から避難している方もカラオケを楽しんでいます。南相馬市から白河の娘さんのお宅に避難している村井英雄さんは、「カラオケをしているときは、嫌なことを忘れられます。くよくよして暗い気持ちになってばかりではダメだと思い、前向きになることができます」と話していました。厳しい状況が続く中でも、少し笑顔を取り戻せる一時でした。



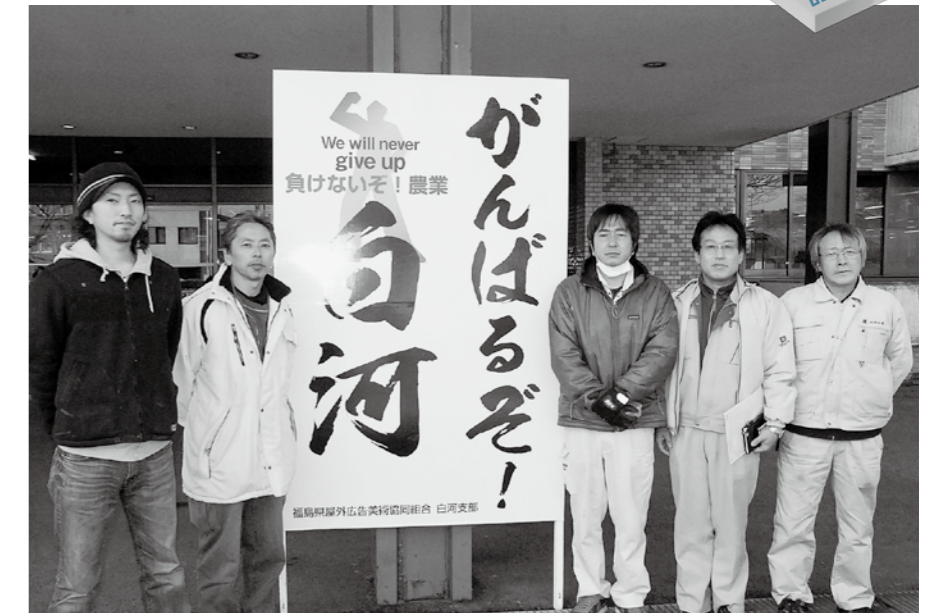
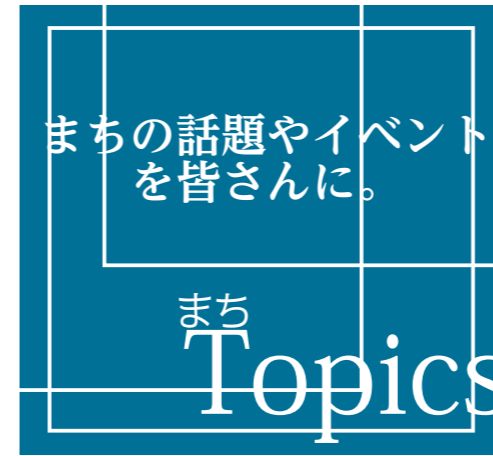
▲カラオケをしている村井さん

**入園式
友達たくさんできるかな**

4月7日、市内幼稚園で入園式が行われました。幼稚園は、震災後、一時休園となった期間もありましたが、無事入園式を迎えることができました。新園児たちは、初めての幼稚園に緊張しながらも、友達を作ることなど、これからの幼稚園生活に期待で胸を膨らませていました。また、4月1日には市立保育園で入園式が、4月6日には、市立小・中学校で入学式が行われました。



▲ひがし幼稚園（東釜子）での入園式の様子



**看板を市役所に設置
「がんばるぞ！白河」**

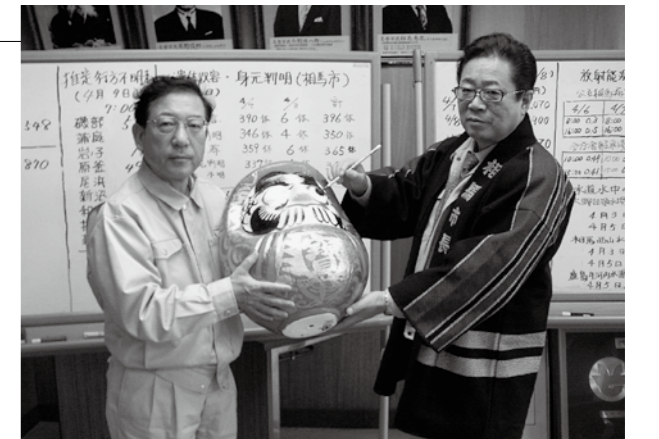
4月4日、県屋外広告美術協同組合白河支部（渡邊宏支部長）から「がんばるぞ！白河」と書かれた看板が寄贈されました。渡邊支部長は「看板業界として何か役に立ちたいと思ったことが作ったきっかけです。応援看板、横断幕、ポスター、車輻マグネットなどを市町村役場などに配布して、復興のために協力できたらと考え、白河支部の会員でアイデアを出し合って製作しました。この看板を見て、市民の皆さんが元気になってくれたらうれしいです」と話していました。最近では、市内の様々な場所で、このポスターを目にすることができます。「がんばるぞ！白河」この力強い言葉が私たちに頑張る勇気を与えてくれます。



▲市内に貼られたポスター

**相双地方の市町村を激励
市長・町長等に面会**

4月2日・9日・20日の3日間で、富岡町、川内村、相馬市、南相馬市、浪江町、大熊町、楢葉町、葛尾村の各災害対策本部を訪問しました。浜通り地方は、津波による被害に加え、原子力発電所の事故により移転を余議なくされるなど、危機的状況にあります。鈴木市長は、被災地を視察し、意見交換を行うとともに、市長・町長等に激励の言葉を贈りました。



▲鈴木市長が贈呈しただるまに目を入れる立谷相馬市長